

大江戸・東京に残る深山幽谷

小石川後楽園は江戸時代初期、寛永6年(1629年)に水戸徳川家の祖である頼房が、その中屋敷(のちに上屋敷となる。)に造ったもので、二代藩主の光圀の代に完成した庭園です。庭園の様式は池を中心にした回遊式築山泉水庭園になっています。光圀は、造成に当たり明の遺臣朱舜水の意見を用い、円月橋、西湖堤など中国の風物を取り入れ、園名も朱舜水の命名によるなど中国趣味豊かな庭園です。

後楽園の名は、中国の范仲淹^{はんちゆうえん}「岳陽樓記」の「天下の憂いに先だつて憂い、天下の楽しみに後れて楽しむ」からつけられました。

小石川後楽園は文化財保護法によって国の特別史跡・特別名勝に指定されています。この重複指定を受けているのは、全国でも小石川後楽園、浜離宮恩賜庭園、金閣寺など、ごく限られています。

とく じん どう 得仁堂

光圀18歳の時、史記「伯夷列伝」を読み感銘を受け、伯夷・叔齊^{はくい しゆくせい}の木像を安置した堂です。



つう てん きやう 通天橋

京都東福寺の通天橋を模して造られました。



せい こ つつみ 西湖の堤

中国の杭州(現在の浙江省)の西湖の堤に見立てたものです。本園以後、日本各地の大名庭園に大きな影響を与えたといわれています。



えん げつ きやう 円月橋

水面に映る形が満月のように見えることからつけられた名称。明の儒学者、朱舜水による設計といわれており、得仁堂とともに当時の姿を留める貴重な建造物です。



ばい りん 梅林

光圀は号を「梅里」と称するほど梅を好みました。2月上旬には紅梅、白梅など30種類ほどの梅が咲きます。



いな だ 稲田

光圀が、農民の苦勞を彼の嗣子・綱條の夫人に教えようと造った田圃。現在は地元文京区内の小学生が、5月に田植え、秋に稲刈りを行い、伝統行事を守り継いでいます。



うち にわ 内庭

水戸藩書院のあったところです。唐門によって仕切れ、大泉水側の「後楽園」と分かれていました。



のべ だん 延段

大小の自然石と切石を巧みに組み合わせた中国風の素朴な石畳です。



から もん 唐門

かつての「後楽園」への正式な入口。戦災で焼失しましたが、令和2年(2020年)に復元されました。



だい せん すい この庭園の中心となる景観。蓬莱島と竹生島を配し、琵琶湖に見立てて造られました。昔はこの池で舟遊びをしたといわれています。



庭園ガイド集合場所

車いす通行可ルート

0m 50m

飯田橋駅→